



発行
県議会議員 扶川敦
 徳島県板野郡
 板野町犬伏字
 大坪 78-1
 TEL 672-5875
 2010年
 9月23日付

徳島バス鍛冶屋原・長原線 補助金の実現し存続決まる 利用拡大へコミバス導入を

6月と9月
 県議会での
 取組をご報
 告します

徳島バスによる鍛冶屋原線と長原線の廃止表明後、6月県議会県土整備委員会で私は、「お年寄りや障害者を含め利用者は存続を望んでいる」「各市町も廃止に反対だ」「補助しても国による特別交付税措置があり自治体の負担は少ない」「補助金を出して両路線を存続させよ」と求めました。

これにたいして県は、「路線の維持に向けて今後検討したい」と答弁。

その後県は、関係市町と県が赤字分の9割を負担して両路線の存続をはかる案を提示し、徳島バスも路線廃止を撤回しました。ひとまず安心です。

しかし、赤字補填だけでは問題解決になりません。そこで、県や市町は9・10月に各1日百円バスを走らせる等、利用拡大に取り組みます。

私はさらに、9月議会で、一時的なキャンペーンではなく、各市町がコミュニティバスに取り組み、これと路線バスやJRを連結して、通学はもとより、免許を返

納した高齢者などが、通院や買い物に使えるシステムを提案しました。また、今後県が設けるバス路線をめぐる協議の場でも、コミバスを議題にし、住民代表を参加させるよう提案しました。

コミバスとは、路線バスの回らない地域をこまめに回る小型バスを自治体が運営するもの。県下各地にあります。板野郡内にはありません。

私は8月、福井県で開かれた「自治体学校」に参加し全国の状況を知りました。

路線バスとコミバスの連携は、長野県木曾町などで成功しています。徳島市川内と応神におけるコミバス試験運行の取り組みも聞きましたが、停留所が近く、量販店や病院へ便利なバスがあれば、十分需要があります。これと路線バスを連携さ

せれば、高齢者や障害者を求めたいと思います。

総合的な交通計画を作れと要求

また私は、6・9月の

両議会でも、今回のバス路線廃止問題が、高速道路

の土日料金上限千円導入

で高速バスの収益が減つ

たことから発生したと指

摘。県としてバスや鉄道、

フェリー、航空機、高速

道路など、総合的な交通

計画を作るべきだと主張

しました。

①飛行場を拡張したら

ジャンボ機より中型、小型

機が重宝される時代に

なった、②高速を安くす

るとJRもバスもフェ

リーも大打撃で補助金が

必要になった、③完成？

りだ」と批判しました。

また今回、ハワイへ

ジャンボ機チャーター使

を1回だけ飛ばすのに

850万円を助成するの

は、「県下に何の経済効

果もない」「空港拡張を

正当化するアリバイづく

りだ」と批判しました。

等交通弱者の足の確保になると同時に、自家用車利用を減らし、地球温暖化問題に寄与します。引き続き粘り強く実現

を求めたいと思います。

車線ではなく完成4車線で高速道路の計画を立てたが交通量が減り危険な対面交通の暫定2車線を解消できない・等々。

便利になるならなんで

もありという無計画性が、税金の無駄遣いを生

んできたのです。

この問題では、全面通

行止めや工期の延長によ

る営業損失の補償も含め

て、発注者である町が誠

意ある対応をするべきで

はないかと、県議会委員

会で議論しました。

町の対応に注目です。

下水道工事による
 浸水被害は誠意
 をもって補償を

板野町銀座商店街で、

下水道工事により地下水

位が上昇し、一時期店の

床面が浸水するなどの被

害が出ました。

この問題では、全面通

行止めや工期の延長によ

る営業損失の補償も含め

て、発注者である町が誠

意ある対応をするべきで

はないかと、県議会委員

会で議論しました。

町の対応に注目です。

猛暑による 低所得者の支援を県に要請 熱中症予防 国が生活保護夏季加算検討へ



県に対して低所得者支援（熱中症予防）を申し入れ（8月5日県庁）

今年の猛暑の中、全国でお年寄りなどが室内で熱中症になり死亡する事例が相次ぎました。

生活保護受給者をはじめ、低所得者のなかには、もともとクーラーを持っていない人もあれば、クーラーはあっても電気代を払えないのでスイッチを入れずに我慢する人もあります。

そこで私たちは、8月5日生活と健康を守る会の皆さんの申し入れに同行し、

①生活保護受給世帯に対して、冬季の燃料代加算と同じように夏季の冷房代も加算してほしい

②低所得者がクーラーを購入する補助をしてほしい

③同じく生活福祉資金の借り入れができるようにしてほしい、等の要望をしました。（上写真右端私）

こうした全国の声を受けて、国はこの9月、生活保護費に夏季加算導入を検討することを、共産党田村智子参議院議員の質問に答えて、明らかにしました。朗報です。

シカの食害から 剣山の自然を 守る緊急対策を



無残に皮を食べられた
剣山の樹木 8月9日

剣山系では、希少な草花やササ、高山で長い年月かけて育ってきた樹木が、増えすぎたニホンジカに食べられて、大きな被害を受けています。もともとニホンジカはこのような高い所には住んでいなかったのに、手入れされない人工林の増加で中腹の食料が減ったり、温暖化で冬を生き延びるシカが増えたり、狩猟人口が減るなど、さまざま原因によって、高山にまで進出しています。

しかし、一方でシカの被害は全山に広がり、下層植生が失われた場所では雨で土壌が流され、あちこちに斜面の崩落がはじまっているところがあります。こうなると、も



防護ネットで回復した
シウマ 8月9日

その後、平成19年から20年にかけて防護ネットが設置され、絶滅危惧種である「キレンゲシウマ」の群落などは見事に回復しています。

一本ずつ対策する樹木ガードの設置は、昨年度



剣山を視察調査する党県議団
と案内の内田忠宏氏 8月9日

その後、平成19年から20年にかけて防護ネットが設置され、絶滅危惧種である「キレンゲシウマ」の群落などは見事に回復しています。そこで私は、団の同僚といっしょに今年8月、ふたたび剣山に登り、被害と対策状況を調査し、9月議会の環境対策特別委員会でも議論しました。

徳島市動物園真横に、産廃施設つくる非常識な計画が！ 市長さえノーと言えば阻止できると、県の見解引き出す



遊園地遊具真横にある
産廃施設計画地

徳島市上方町と渋野町にまたがる徳島市立動物園と道路一つ隔てた土地に廃プラスチック処理施設を作ろうという民間業者の計画に、住民が自治会をあげて反対しています。業者の計画では、廃プラスチックや廃タイヤを蒸し焼きにして油、ガス、残さに分離します。排ガスが来園者や飼育動物に影響を与えるトラブルが万一にも起こらない保証はありません。

徳島市は6月議会で、県開発審査会の基準を引き合いに出し、住宅や学校教育施設と違って、動物園という社会教育施設が産廃施設計画地の近くにあって不許可の理由にはならず、申請があれば設置を許可せざるを得ないかのような答弁をしました。

徳島市は6月議会で、県開発審査会の基準を引き合いに出し、住宅や学校教育施設と違って、動物園という社会教育施設が産廃施設計画地の近くにあって不許可の理由にはならず、申請があれば設置を許可せざるを得ないかのような答弁をしました。

市民の意見や子ども

徳島市は6月議会で、県開発審査会の基準を引き合いに出し、住宅や学校教育施設と違って、動物園という社会教育施設が産廃施設計画地の近くにあって不許可の理由にはならず、申請があれば設置を許可せざるを得ないかのような答弁をしました。

この問題はいまや日本全国で見られますが、剣山や三嶺（みうね）など国設鳥獣保護区の85%は徳島県側にあり、私たちは貴重な剣山の自然を次世代に引き継ぐ大きな責任があります。5年前から現地調査して問題を指摘一定は対策が進んだがおいつかない

と今年度で約200本。防護ネットによる囲い込みは、これまでに26か所です。しかし、広大な剣山系全体からすると、きわめてわずかな植物をガードできているにすぎません。

「調整」して適正な数に減らすことです。捕獲の方法は、銃器によるものと囲い罠によるものがあり、平成21年度の国による捕獲は銃器と囲い罠で40頭、県による捕獲は囲い罠2基で13頭、合計53頭です。しかし、環境省は年

間この地域で100頭から300頭捕獲しないと、食害を食い止められないとしています。捕獲量を増やし抜本的な対策を

6基に増やし、国も捕獲数を増やすと答えました。私が環境省に聞いたところ、今年度、同地域で300頭弱を捕獲予定とのこと。私は、この冬の対策でどれだけ効果があったか、来春追跡調査するよう求めました。

議会報告会
のご案内

日時 2010年10月24日(日) 午後2時より

場所 板野町町民センターにて

弁士 県会議員 扶川敦 町会議員 石田実 天羽生美